

2011 大会プレイバック

<マスターズ甲子園2011・第8回大会>
2010～2011シリーズ第2幕

第8回大会では、各地方予選大会で代表権を得た、千葉県選抜(千葉代表)、大宮工業(埼玉代表)、安田学園(東京代表)、横浜商業(神奈川代表)、大垣商業(岐阜代表)、海星(三重代表)、天王寺(大阪代表)、市立尼崎(兵庫代表)、三次(広島代表)、那賀(徳島代表)、丹原(愛媛代表)、矢部(熊本代表)、都城(宮崎代表)、鹿屋(鹿児島代表)と、昨年大会で重松清広校長により抽選された宇治山田商業(三重県)、府中東(広島県)の計16チームが出場しました。このうち、安田学園、那賀、矢部、鹿屋の4チームは、現役高校野球部も甲子園未出場であり、高校創設以来、悲願の甲子園初出場となりました。天王寺OBチームでは、同校ブラスバンド部のOB-OGが集結、甲子園球場のスタンドでも高校同窓会が実現しました。

これらの出場16チームに計726人の選手がベンチ登録、このうち高校時代での甲子園非出場者は637人でした。最年少は18歳、最高齢は、長嶋茂雄氏の佐倉高校野球部時代の監督である加藤哲夫氏が80歳で出場しました。元プロ野球選手も参加し、元メジャーリーガーの福盛和男氏(34歳、都城OBチーム)を含む4名がベンチ登録していました。

大会初日の記者会見には、マスターズ甲子園大会応援団長である重松清氏が出席しました。東北地方被災地から福島県の保原高校OBといき海星OBの2チームが出場し、大会2日目(24日)の特別プログラムとして甲子園シートノックを開催しました。計50名の元球児とマネージャーが、甲子園球場グラウンド上のプレーと躍動感により震災復興に向けたメッセージを被災地と全国に発信しました。

大会2日間とも開催される甲子園キャッチボールには、30都府県より計243ペアが登録。元高校硬式野球部関係者(部員、監督、部長、コーチ、マネージャー)であれば、チームメイト同士や他校の元選手、兄弟等で参加できる「球友編」に17ペア、片方が元高校硬式野球部関係者であれば親子で出場できる「親子編」に最年少3歳から最年長82歳までの195ペア、また、片方が元高校硬式野球部関係者であれば夫婦でキャッチボールできる「夫婦編」に31カップルが参加しました。

高校野球選手権大会の初代学生司会者である山内佑利子氏が式典司会を担当。また、夏の高校野球選手権大会の開会式入場行進でプラカード係をかつて務めた市立西宮高校OGが、高校時代にプラカードを持ってなかった同校のOGを誘い、開会式入場行進でのプラカード先導役を実現しました。その他、かつて甲子園に憧れた審判員、ボランティアスタッフもそれぞれの想いで甲子園デビューを実現しました。



信じてる。
野球の力。
みんなの絆。

マスターズ甲子園2011 がんばろう!
MASTERS BASEBALL IN KOSHUEN 日本
2011.12.23(水)~24(木)